

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2024年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		環境園芸学科		
科目名称	環境園芸実験実習Ⅰ					授業形態	実習		
科目コード	710002	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	廣瀬 大介、岡島 直方、長江 嗣朗、前田 隆昭、平岡 直樹、山口 健一、牧田 直子、新谷 喜紀、菅野 善明、陳 蘭庄、林 典生、杉田 亘、中野 光議、関西 剛康、姜 暲求							ICT活用	
授業概要	環境を考えた循環型社会に向けて、植物に係わる農学系の生産園芸（作物）保全、造園緑地、バイオ・育種、花・ガーデニング、自然環境の立場からフィールドセンターの実習場、学外の実習場、屋内の実験実習場を利用して、環境への負荷を軽減することが可能な技術について基礎的な実験実習を学びながら、応用への考察ができるようにします【知識・技能の育成】【コミュニケーション能力の育成】。								
関連する科目	環境園芸実験実習Ⅱ								
授業の進め方 と方法	授業はオムニバス形式で行われます。1学年をA、B、C、Dの4班に分けて実習を行います。各専攻で実施する内容は以下に示しますが、具体的にいつ何を行うかの日程は別紙で示します。回ごとに、何を学ぶのかの概要、それを学ぶための方法の説明がなされます。概要を理解した後、実習や実験として、実際に体験してもらいます【知識・技能の育成】。体験内容はレポートなどにまとめます。1回の授業構成は2コマです。以下の授業計画はA班を事例としたスケジュールです。また、本実習はグループワークや体験学習等を取り入れたアクティブラーニング形式で実施する【コミュニケーション能力の育成】。 (A班を事例としたスケジュールを示します。班によって異なります。)								
授業計画 【第1回】	ガイダンス、レポート（共通） 環境園芸実験実習Ⅰの授業内容について概要を説明し、実習場所の施設見学を行う。								
授業計画 【第2回】	作物の播種（園芸） 圃場作物の播種方法について学ぶ。								
授業計画 【第3回】	身近な造園空間の視察研修（造・緑） 都城島津邸では都城の歴史や薩摩様式の庭園を学び、早水公園または椎八重公園では公共緑地の特徴を学ぶ。								
授業計画 【第4回】	ガーデニングによるブランディングについて学ぶ（こどものくにバラ園視察）（花・ガ） こどものくにバラ園を視察します。2017年から現在まで、どのように管理運営されてきたかを学び、今後の施策を検討する。								
授業計画 【第5回】	バイオ技術の基礎（バ・育） 培養実験を行いながらバイオ技術の基礎を学ぶ。								
授業計画 【第6回】	花卉の基礎な栽培維持管理（園芸） 最適な環境条件を検討しながら、花卉を種子から繁殖し、さらにポット苗の生産を行う。								
授業計画 【第7回】	エクステリア入門-1（造・緑） 坪庭の計画図面を通じて、魅力のある造園設計を学ぶ。								
授業計画 【第8回】	ガーデニングの基礎（寄せ植え）（花・ガ） 寄せ植えデザインを小グループ協働しながら作成を行うとともに、後期に作成する花壇を中心に管理作業を行う。								
授業計画 【第9回】	無菌操作と培養の基礎（バ・育） 植物組織培養の基礎技術の培地の作成および無菌操作を行う。								
授業計画 【第10回】	果樹の栽培管理（園芸） 果樹類への施肥および収穫に関する管理作業を行う。								
授業計画 【第11回】	エクステリア入門-2（造・緑） ポケットパークを事例として模型制作を行う。								

授業計画【第12回】	花壇及び花鉢の管理（通常管理及び車いす・アイマスクを用いた管理）（花・ガ） 車椅子・アイマスクを用いたしょうがい疑似体験をしながら実習で作成した寄せ植えの管理作業を実施する。
授業計画【第13回】	栽培環境の基礎（園芸） 園芸植物の種類と栽培土壌の関係について学ぶ。
授業計画【第14回】	生物と環境条件の調査（水生生物）（自然） 水辺ビオトープや水田・水路において、水生動物の採捕と観察、環境条件の測定を行う。
授業計画【第15回】	花卉の栽培および花壇管理（園芸） 主要な花卉の苗物や鉢物の灌水、施肥および花がら等の維持管理作業を行う。また、都城キャンパス内にある花壇に季節に適した植物材料を選定するとともに、それらを実際に定植し管理を行う。
授業の到達目標	1. 環境園芸に関する基本的な技術の習得と考え方を習得する。【専門分野のスキルの獲得】【実践力の育成】 2. 集団での作業を通じて意思疎通、協調性、自己表現能力を身につける。【コミュニケーション力の育成】
学位授与の方針（DP）との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)
授業時間外学習【予習】	事前に専攻別に配布された講義日程をもとに内容を確認し、毎回30分程度予習をする。
授業時間外学習【復習】	実験実習中あるいは実習終了後に提出用レポートに目的、材料、方法、結果、考察およびまとめを図示も入れて記述しながら復習をかねて1時間程度学修する。その回ごとに体験すべき技術や実験がある。指示に従って適切に実施できているか、受講生の実施状況を見ながら、その都度担当教員などから必要な指示がなされる。
課題に対するフィードバック	その回ごとに体験すべき技術や実験がある。指示に従って適切に実施できているか、受講生の実施状況を見ながら、その都度担当教員などから必要な指示がなされる。
評価方法・基準	レポート点と講義途中の小テストなどで総合的に評価する。オムニバス形式なので、2回（2コマ）で7点満点評価する。
テキスト	担当教員により、プリントなどの配布あり。
参考書	担当教員により、別途紹介される。
備考	指定した作業服、靴および白衣を着用する。